

我が社のイチ推し！



アトム株式会社（広島県竹原市）

現場の声を起点に、働く人の安全・快適・生産性を支える
独自のゴム加工技術で挑戦を続ける作業用品メーカー



軽量携帯長靴「pokeboo（ポケブー）」

田植え用足袋から始まった、現場密着の製品づくり

アトム株式会社は、「働く人の安全・快適・生産性の向上をサポートする」を経営理念に掲げ、作業用手袋や長靴を中心とする各種作業用品の開発・製造・販売を手がけている。

創業は1924年。海軍工廠向け作業服の縫製に始まり、戦後は物資不足を背景に、古い繊維やナイロンスッキングから再生系を作る紡績業へ転換した。その後、中間製品から最終製品へのシフトを図るべく、靴下や軍手の製造へと事業を広げていった。

現在の事業につながる転機は、初夏から夏場にかけて、ナイロン靴下がよく売れる地域があったことだ。調べてみると、農家が田植えの際に足を守るため履いていた。そこで、けが防止と滑り止めの機能を高めるため、靴下にゴムを張った「ナイロン田植え足袋」を開発した。農家での用途を現場で捉え、安全性と使いやすさを加えて製品化した、同社らしい一品である。その技術を軍手に応用した「ゴム張り手袋」が、現在の製品群の源流となった。

こうした事例が象徴するように、現場の声を起点に、困り事を具体的な製品へと変える姿勢が、同社のものづくりを支えている。



ゴム張り手袋

独自のゴム加工技術が生んだ軽量携帯長靴「pokeboo（ポケブー）」

同社の強みは、用途に応じてゴムの種類や加工方法を使い分ける技術にある。

作業用手袋では、固形ゴムを手の形に切って布に張る方法と、液体ゴムで表面を覆う方法を使い分ける。固形ゴムタイプは強度と通気性を両立でき、重作業に向く一方、液体ゴムタイプは防水性に優れ、水や油を扱う作業に適している。漁業や機械作業向けには油に強いニトリルゴムを用いるなど、素材選びにも気を配る。

こうした技術は長靴にも生かされ、農業用長靴をベースに、薄くて軽く、丸めて収納できる製品を生み出した。当初は店頭での陳列スペースを抑えるための工夫だったが、日本野鳥の会がバードウォッチング等での電車移動時に携帯可能な長靴として着目し、レジャー、アウトドア用途へと広がった。その延長線上で開発したのが軽量携帯長靴「pokeboo（ポケブー）」である。

ポケブーは、引き出しやトートバッグに入れておき、急な雨や災害時にも使える長靴として企画された。折り畳むと 500mL のペットボトル程度に収まり、携帯しやすい。開発に際しては、折り曲げても亀裂が生じにくいゴムの配合や、薄さと強度を両立させる形状を工夫した。近年は韓国や台湾のインフルエンサーによる紹介を機に、欧州を含む海外でも注目され、音楽フェス、キャンプ、家庭菜園など幅広い場面で使われている。



工場での作業の様子

現場の困り事を今後も拾い上げ、働く人を支えていく

ポケブーが日常生活や海外にも用途を広げる一方、同社が従来から重視するのは、作業用品の原点である「安全」だ。チェーンソーや草刈り機、掘削機などの振動による白ろう病を防ぐため、発泡ゴムを使った振動軽減手袋を開発した。さらに、防弾チョッキ用繊維を用いた耐切創手袋など、けがの程度を軽減し、労災リスクを下げる製品づくりを続けている。

一方、製品の価値を伝える点が課題と捉え、プロジェクトチームを設けて、パッケージ等の工夫に取り組んでいる。また、未来の幹部を育てる「ミラカン教育制度」で若手育成にも取り組むなど、人材面にも注力する。

ニーズを見つければ、まず試作し、良ければ商品化する。大量に売れる汎用品を狙うのではなく、他社が手がけにくい様々な困り事に応える姿勢が、多彩な製品開発につながった。現場に寄り添う姿勢と優れたゴム加工技術を強みに、同社はこれからも働く人を支え続ける。



振動軽減手袋

アトム株式会社
代表取締役社長 平 雄一郎 氏
本社：広島県竹原市忠海東町4丁目2番1号



ホームページ

